川崎支部支部長　山岸一雄　（執筆：山岸））

**川崎支部便り　第46号　（2021年11月）**
**オープンで各自が主役：川崎支部**

人生を豊かに（雑学のすすめ）

【村上春樹の生き方】

ノーベル文学賞候補の作家村上春樹氏が、読者からの質問メールに答えています。④「村上さんの生き方の原点は？」　村上さんの揺らがない、ある意味、頑なな生き方は、少年あるいは青年時代に、これといった大きな何かに影響を受けたからだというのはありますか。

（回答）どうしてこういう性格になったのか、僕にもよくわかりません。両親ともまったく似ていないし、まわりの誰とも似ていません。若いうちに結婚して、自立して商売を始めて、それから小説家になって、そうするうちにだんだん自分の世界、というか生き方が固まってきたということだと思います。

それぞれの段階で身銭を切っていろんなことを学んで、それが身についてきたということだと思います。身銭を切るって大事ですよね。他人のお金を使っていては、何も身に付きません。本当に大事なことは多くの場合、痛みと引き換えにしか手に入りません。（村上さんのところ（村上春樹著　新潮社）より）

川 崎 点 描 ： 川崎支部活動拠点

　【**（尾山台付近の昔）④**】

農家の人々は忙しい中にもその時々の行事を大切にして守り、そうした祈り事には普段とは異なるご馳走を頂くのが楽しみでした。一方こうした行事は、村人達の大事な相談事や助け合いの機会でもありました。

年越しとお正月の行事は、昔からの大きな行事です。秋の収穫も済んで、明けには麦が少し伸び始めました。この時期は麦の値付けや分闕（ぶんけつ－稲、麦等の茎が根元で枝分かれする事。）を良くする為に、何回か麦踏をします。また夏野菜を取り込んだ後の畑には、大根が育っています。年越しの行事の初めは、12月8日、八日堂といって鬼が来るので、竿に笊（ざる）、籠等をさして門口に立てておまじないをし、その後は小豆粥を食べる習わしでした。そしてお正月用品を市場に出荷した後は、市内に親戚のある家ではお正月の物を手車に積んでお歳暮として配って回ります。

その後、それぞれの農家では新しい藁（わら）でしめ縄を作り、すす払い（大掃除）をし、年越そばを作ります。女性は正月用の煮物作りも大変でした。とりわけ大変だったのは餅つきです。餅つきをする時には、御団子を棒に刺して門口に置き、「ミカワリバアサン」に供えました。ミアワリバアサンというのは、その昔六郷用水（丸子川）で子供を亡くした母親が、我が子を探してこの辺を歩き回るので、お腹を空かしたら食べる様に供えるのです。

餅つきは今より大家族の上に、本家でまとめて突くことが多く、分家や近所の分まで含めると、7、8俵はついたと言いますから、なみ大抵のことでは有りません。それぞれの家から人手を借り、まずもち米が蒸かし上がると臼にあけて杵でつき、一回毎に手返しをしながらお餅になる迄繰り返すのです。この時は米の餅だけでなく、粟、吉備やもろこし餅を、安倍川餅やあんころ餅にして近所に配る等、忙しく立ち回らなくてはなりませんでした。

さて年の瀬も押し詰まって30日になると、家々では神棚にしめ縄を張ってお神酒（みき）とお灯明をあげ、元旦には家の主人が鏡餅を供えて家族の一年の安全を祈って、新しい年が始まります。また、仏壇には花やお供え、お正月のご馳走をあげてお念仏を唱えました。この後から一家揃って新年のお祝いの膳が始まります。初詣に行く習慣は有りませんでした。子供たちにとっては、1月15日の「せいの神」が楽しみなお正月行事でした。（ふるさと世田谷を語る　尾山台・奥沢（世田谷区生活文化部文化・国際課）より）

【ここで一言】

　大晦日の歴史はかなり古く、平安時代まで遡ります。大晦日は正月に迎え入れる歳神様（としがみさま）をまつるための準備の日で、歳神様は稲の豊作をもたらすとされている神様のことです。農作物が豊かに実り、食べるものに不自由することなく暮らせるようにと、昔から大切に扱われてきた神様です。また、歳神様は各家庭にやってくることから、家を守ってくれる祖先の霊とも考えられていたそうです。

　昔は1日が夜から始まって朝に続くとされ、大晦日の日暮れからすでに新年の始まりでした。そのため、大晦日の夜は歳神様を待ち、一晩中寝ずに起きておくという習わしがあり、うっかり早く寝てしまうと、白髪になる、シワが寄るなどという女性にとっては恐ろしい言い伝えもあったそうです。

（Yahoo Japanから）

【おまけ】

　世田谷区出身の歌手・（社）日本歌手協会8代目会長田辺靖雄（1945年4月5日～）の妻は九重佑三子です。[1973年](https://ja.wikipedia.org/wiki/1973%E5%B9%B4)に[森繁久彌](https://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%A3%AE%E7%B9%81%E4%B9%85%E5%BD%8C)夫妻の媒酌で結婚式を挙げたのは、世田谷八幡宮です。

　世田谷八幡宮のお相撲は、[渋谷氷川神社](https://tesshow.jp/shibuya/shrine_higashi_hikawa.html)、[大井鹿島神社](https://tesshow.jp/shinagawa/shrine_oi_kashima.html)とともに江戸郊外三大相撲の一つです。

支部の活動

①2022.01.22（土）：第1回講演会の予定。（経営学部OB染野氏）（日本人の1％しか知らない幻の新奥沢線）予定。（二子玉川　夢キャンパス　14時から　無料）

ご存じですか

【カミソリ大隈重信と橋本徹馬】

 大正年間から昭和にかけて活躍した橋本徹馬という政治評論家がいました。辛辣を持って知られた人ですが、この人がある新聞で、大隈重信を徹底的に批判しました。まだ若くて成年客気（かっき）の頃なので、大得意になり、どれだけ大隈が意気消沈しているか見てやろうと思い、早稲田を訪ねました。そうすると、大隈が応接間に現れて、石原莞爾と笑いながら、「おお、げんきにやっちょるのう」といって、機嫌よくソファに腰かけ、何のわだかまりもなく話をしたそうです。橋本が完敗したわけです。

大隈という人は、もともとこういう人では有りませんでした。怜悧で剃刀みたいな人でした。馬鹿な事、くだらないことをいう奴と看てとると、全く話をしません。会おうともしないのです。どうでもいい人間と合うのは時間の無駄だと言って、選び抜いた少数の人間としか会わない、触れれば切れる様な人でした。

この様な性分ですから、周りに人は集まりません。雑多な人が寄ってくるのではないと、政治家はつとまりません。それを見ていて、かって大隈家の居候だった実業家の伍代友厚が大隈に諫言し、更に手紙を送って忠告しました。

要点は、①愚説愚論を聞くべし。一を聞いて十を知ってしまうのが、閣下の短所である。②地位が下の人間が、閣下と近い意見を述べたらすぐに採用すべし。他人の論を褒め、採用しないと徳は広がらない。③怒るべからず、怒気怒声は禁物。④事務の処断は、急ぐべからず。即決せずにぎりぎりまで待つべし。⑤閣下が人を嫌うと、向こうも閣下を嫌うようになる。進んで、嫌いな人との交際を求むるべし。

さすがに元居候だけあって、よく見ています。大隈が偉いのは、伍代の建言を受け入れたことです。それだけで、やはり器量人だという気がします。どんな愚論愚説も終わりまで聞き、ちょっといいと思った提案は残らず採用し、決して怒らず、怒鳴らず、処理を急がず、大嫌いな相手に交際を求める、という流儀に変えました。180度の転換ですね。50歳を超えて、これが出来たのですから、やはり大人物です。誰でも受け入れるので、一時、大隈家の居候は100人近くになったと言いますが、これ位開けっぴろげになれば、誰でも厚意を抱かずにはいられません。

大隈が身をもって示してくれたのは、器は修行によって大きくなる、人は何歳になっても変わることが出来るということだと思います。なかなか出来ることではありませんが、決意すれば明日からでも、変わる事が出来る、その事を大隈重信は示してくれます。（人間の器量（福田和也より）

　次号もお楽しみに。

皆様のご意見・ご感想をお待ちしています。（連絡先：k\_yamagishi@6kou.co.jp 山岸宛）

**お願い：「川崎支部便り製本発行の基金」への寄付**　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　キャッチコピー：足で見つめた川崎や世田谷の原点がここにあります。

主旨：川崎周辺の隠れた歴史場所や風土地を訪ね、また世田谷キャンパスがある世田谷にゆかりの人について、将来の記憶に残す記念誌として出版します。（約1年後の製本発行予定）　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ご賛同いただける方は、1口　2,000円でお願いします。

三菱UFJ銀行　駒沢大学駅前支店　（普通）　口座番号　0633094　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　名義：東京都市大学　校友会　川崎支部　支部便り発行基金　代表　山岸一雄

特典：「川崎支部便り製本」をお送りします。（製本が出来次第－来年初めの予定）

本文へのアクセス：https://tcu-alumni.jp/branch3/kawasaki　（川崎支部HP経由）

https://tcu-alumni.jp/branch3/blogs/blog\_entries\_edit/add?frame\_id=307